

「駿河台大学地域研究」創刊にあたって

現在の日本は、人口の減少が急速に進む中で、産業・社会構造が資本集約型から知識集約型に転換しつつあります。そのことは、都市ばかりではなく、むしろ地域に展開する産業の発展の可能性を高めているように思われます。かつて、日本のいくつかの地域産業は、西欧の技術や製品を模倣・改良し、低価格の製品を大量生産することによって、発展してきました。しかし今日、アジア諸国との競争が激化するなど、世界的な競争・市場環境が変化する中で、従来のやり方が通用しなくなったのは周知のことです。現在、地域産業の分野で求められているのは、地域固有の資源や文化を体現し、その魅力、独自性、価値などを全国、さらには世界に向けて発信する力なのではないでしょうか。

その場合、地域に立地する高等教育機関としての大学には、地域の経済や生活を支える基盤として、少なからぬ役割を果たすことが期待されます。すでに本学は、「駿河台大学 グランドデザイン 2021」において、埼玉県西部の地域社会に根ざした大学として、地域の中核的人材の育成、地域の発展への貢献、地域の活性化への貢献にそれぞれ取り組むことをミッションとして挙げています。本学は、地域で活躍する人材を育成し、地域の行政や産業を支える基盤を提供することに加えて、教員の持つ高度の専門性を活かし、優れた研究成果を地域社会に還元することも使命としているわけです。

そうした使命を念頭において、地域の自治体、企業、学校、団体等との連携・協力を進めながら、地域活性化に向けて、地域の強み、潜在力を引き出す研究に取り組むために設立されたのが地域創生研究センターです。平成 29(2017)年 4 月に設立された本センターは、地域創生に向けた研究プロジェクトの推進、地域の自治体及び企業等との共同研究、地域課題解決に向けた教育プログラムの開発、研究会やシンポジウム等の開催を行うとともに、そこでの成果を本紀要により公表し、広く情報の共有を図ることを通じて、地域の発展に貢献することを目指しています。本センターの研究活動が、地域の有する様々な資源の価値を再発見し、そこに何らかの付加価値をつける取組につながることを、心より願っております。

最後になりましたが、本センターの研究活動に携わり、本紀要に投稿された教員、公刊にご尽力いただいた職員その他の関係の皆様にご心より御礼申し上げ、創刊のご挨拶とさせていただきます。

令和 2 (2020) 年 3 月

駿河台大学 学長 大森一宏